

「伝える」と「伝わる」の違い

9月も終わり、猛暑もようやく過ぎたのか、少しずつ涼しくなってきた、秋の訪れを感じられる季節となってきました。

秋と言えば、『食欲の秋』『読書の秋』『スポーツの秋』などいろいろありますが、再び読書について触れてみます。

『伝え方が9割』という本をご存知でしょうか？

115万部のベストセラーを記録した本です。

内容としてはまさしくタイトル通り、「同じ内容でも伝え方次第で結果は変わるよ」というものです。例えば・・・

- 「トイレはきれいに使ってください」 → 「いつもきれいに使っていただき、ありがとうございます」
- 「徐行してください」 → 「この付近は美人が多いです。是非徐行してみてください」
- 「芝生に入らないで！」 → 「芝生に入ると衣服に農薬が付きますのでお気を付けてください」
- 「デートしてください」 → 「驚くほど美味しいパスタの店があるのだけれど、いかない？」

どれも左右で同じことを言っていますが、書き方次第で印象がだいぶ違いますよね。

左の文章は「お願いする側の主張」だけとなっていますが、右の文章は「お願いされる側が関心を持てる文章」となっています。

「伝える」は伝えた側の一方的な主観ですが、相手が理解して初めて「伝わる」となります。相手の心を動かすのであれば、「**伝わる**」を意識することがポイントです。

これは、子どもへのアプローチも同じです。

例えば子どもが園内を走った時に、「ダメだよ」「やめてね」と言っても、時間が経つとまた走り出してしまいます。

それは子どもの中で「走る＝ダメ」というだけで、肝心の『何故してはいけないか』の意図が伝わっていないからです。

「転んだらけがをしてしまうから走らないでね」「友だちにぶつかったら危ないから歩こうね」と、何故してはいけないのか明確な理由を話すことで初めて理解してくれます。

また、子どもがお手伝いで部屋の掃除をしてくれた時も、ただ「ありがとう」と言うだけでなく、「部屋がきれいになったから気持ちが悪くなったね、掃除をしてくれてありがとう」と言うことで、子どもは『褒められるため』にお手伝いをするのではなく、『きれいにするため』という目的を持ってお手伝いをしてくれるようになります。

自分自身、忙しい時や咄嗟の時など、ついつい簡略化して言葉を掛けてしまいがちですが、そこは手間を惜しまずしっかりと『伝わる』ように心掛けていきたいです。

参考文献『伝え方が9割』

著者：佐々木 圭一

出版社：ダイヤモンド社



(中野)